「つなげよう　支えよう森里川海」ミニフォーラム in 黒松内に参加して

大表 章二
（蘭越町、蘭越自然探検隊）

2015 年 12 月 2 日㈬に行われた「つなげよう　支えよう森里川海」ミニフォーラム in 黒松内に参加しました。主催は環境省、共催は黒松内町と後志地域生物多様性協議会です。蘭越からは蘭越自然探検隊のメンバーである町民 5 名が参加しました。

資料によると、このミニフォーラムは昨年 12 月に環境省が立ち上げた「つなげよう　支えよう森里川海　プロジェクト」の一環で、全国 40 か所で計画されています。すでに 10 月 30 日には東京で「キックオフイベント」が行われ、札幌など全国 9 か所ではシンポジウムが実施される計画となっています。

さて、このミニフォーラムでは、株式会社NAC代表取締役のロス・フィンドレー氏が「ニセコでの自然体験活動とこれから」と題して特別講演を行いました。彼は、ニセコ地域の尻別川という自然の恵みを観光業に活用した取り組みについて、1時間にわたって弁舌さわやかに講演しました。話を聞いて、夏季のニセコに多くの観光客を呼び込んでいることに大きな驚きを感じました。でも物足りなさも感じました。その点について次に書きます。

自然を活用した観光業が栄えることは大いに結構だと思います。しかし私は尻別川を歩いているときに、次のような光景を見たことがあります。大声で喜ぶ観光客を乗せた船が上流から下ってきました。川岸で休んでいた野鳥は驚いて一斉に飛び立ちました。別のときには、釣り人が残した糸が嘴に絡みつきもがいているウミウがいました。こうした事例が稀なことなら大きな問題ではないかもしれません。しかし尻別川で観光業が栄え、川遊びをする観光客が増えていけば、自然に対する負荷、生きものに対するストレスも大きくなっていくのではないでしょうか。

観光業には、自然を壊さない観光業、自然に配慮した観光業であってほしいし、自然を利用した観光業には、自然を守る活動にも取り組む観光業であってほしいと私は思います。

そうした視点からすると、フィンドレー氏の講演には失望とまでは言えないまでも物足りなさを感じました。自然を活用した観光業を推進するにあたって、自然に対してどのような配慮を心掛けているのかが語られなかったからです。特に今回のミニフォーラムは、「つなげよう　支えよう森里川海」というのが、テーマなのですから。

プロジェクトの目標に、「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。」というのがあります。フィンドレー氏のこれまでの取り組みは、「恵みを引き出す」ものと位置づけられるのかもしれません。ただそれは前段の「森里川海を豊かに保ち」というのが大前提とならなくてはいけないと思うのです。「豊かに保てないなら、引き出してはいけない」し、「豊かに保てるような引き出し方をしなければいけない」と思います。そのことを彼がどのように考えているのかを語ってほしかったのです。

そのほか、このミニフォーラムに参加しての意見を書きます。

ミニフォーラムでは『中間とりまとめ』(H 27年6月）が説明されました。この文書では、森里川海の危機として7つ挙げています。その一つ（川の危機）では、「洪水等の災害を防止するためのダム、河口堰の整備や河川の改修は、河川生態系の維持に必要な攪乱の機会を減少させています。」、「これらの河川構造物は、海と川を往き来する魚種や水生生物の移動を阻害し、下流域や海への砂礫等の供給を減少させています。」と述べています。素人目ではありますが、妥当な現状把握であると思います。ただ現在においても、国土交通省はダム工事などを行って、森里川海とそのつながりをさらに悪化させる政策を実行しているのが現実です。『中間とりまとめ』でも「森里川海に関わる行政は多岐にわたり、それぞれの目的のための施策がそれぞれの合理性、効率性を優先して行われていることにより、結果として、森里川海の境界域が置き去りにされ、その恵みが損なわれる事態が生じてしまうことがあります。」と述べています。であるなら、国土交通省や農林水産省、厚生労働省などにこのプロジェクトへの参加を呼びかけ、歩調を合わせて目標達成のために取り組むことが必要ではないでしょうか。

また、環境省は、「地方公共団体、有識者、先進的な取組を行っている方々との対話や議論を行いながら、……基本的な考え方と対策の方向性をとりまとめます。」(当日配布のパンフレットによる）と述べています。対話や議論の対象にはぜひいろいろな立場の有識者や地域の自然保護団体を含めてほしいと思います。例えばダム建設に反対の立場の学者や自然保護団体とか。それから多くの地方公共団体を巻き込むように働きかけてください。日本自然保護協会などの自然保護団体との対話や議論もぜひ行ってください。

私自身も微力ながら、地域の森里川海の健全化のために地域で活動していこうと思います。